

令和 5 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立耐久高等学校（定時制） 校長名：戸川 しをり

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- 〈学校像〉 人とのつながりを大切にし、自分のペースで学び、明るく生きがいを持って自立を図る学校
 〈生徒像〉
- ・自分自身を認め、明るく生きがいを持って生活できる生徒
 - ・自立して生活するために必要な基礎的・基本的な学力を身につけた生徒
 - ・他者を認め、社会の様々な人々とより良い関係を築くことができる生徒
 - ・様々な人々と協力し、精一杯、家族や地域社会のために力を発揮する生徒
 - ・今後の人生や将来について考え、ひたむきに努力する生徒

学校評価の公表方法

本校ホームページにおいて広く公表する

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月28日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	社会の一員として力を発揮するための、基本的な生活習慣の確立	C	担任が中心となって家庭との連携を密にし、可能な限り欠席や遅刻等を減少させる。	欠席・遅刻等の連絡が事前にできているか。また、欠席・遅刻等が減少しているか。	B	規則正しい生活習慣が身につくことにより欠席・遅刻等が減少している。また、担任への事前連絡もできている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が進級・卒業できるよう、学校生活が楽しくなるような行事の計画や、受け入れ体制の構築に努める。 ・挨拶がコミュニケーションの第一歩であることを伝え、お互いが気持ちよくなるよう笑顔での挨拶を心掛ける。 ・適切な言動を身につけ快適な社会生活が送れるよう、学校内外で様々な方々と接する機会を多く設ける。
			人間関係を円滑に運ぶため、登校時や下校時の挨拶指導に取り組む。	相手に視線を向け、笑顔で挨拶ができていくか。また、挨拶が日々の習慣になっているか。	B	相手より先に挨拶することは少ないが、相手に視線を向けて挨拶を返すことができ、日々の習慣になっている。	
			社会のルールやマナーを守る態度を育成する上で、時と場に応じた言動を身につけさせる。	学校の決まりや約束事を守れているか。適切な言葉使いで人と接しているか。	A	問題行動は皆無であり、落ち着いて授業に取り組んでいる。目上の人も適切な言葉使いや態度で臨んでいる。	
2	自他を認め、人と豊かに関わろうとする態度の育成	D	授業や特別活動等、学校生活のあらゆる場面で自分の思いや意見を他者に伝えさせるとともに他者の思いや意見を共感して受け止めさせる。	学校生活全ての教育活動において、教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションが図られているか。	C	他者とコミュニケーションを取ることが苦手な生徒もいるが、授業や特別活動の場面において自分の考えや思いを伝えることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・他者とのコミュニケーションが取れ、積極的に話しかけることができるよう、授業や特別活動等で教師による声かけや支援を率先して行う。 ・多くの人と関わることで自分に自信が持てるよう、集団作り学習等を校内外で計画し、積極的に実施する。 ・振り返り情報交換会を毎日実施し、生徒が抱える課題等の把握に努める。また、SC・SSW等に積極的に関わってもらい、生徒の支援体制を確立する。
			集団作り学習等を通して、「人と関わることは苦痛なことではなく楽しいことである。」と実感させる。	集団作り学習や校外学習等に休まず参加し、積極的に取り組んでいるか。	B	集団作り学習や校外学習等へ休まず参加し、積極的に人と関わりを持つ態度が見られる。	
			生徒の抱える多様な課題に対応するため、全教職員による生徒支援体制の確立を図る。	毎日の振り返り情報交換会で、生徒の情報共有ができていくか。必要に応じて、スクールカウンセラー等を適切に活用しているか。	B	毎日の振り返り情報交換会で生徒の状況把握に務め、SC・SSWや関係機関等と連携を図り、生徒や保護者に対して適切に支援を行っている。	
3	社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の養成	B	学び直しによる基礎学力と集中力の醸成を、基礎学習を中心に育成する。	基礎学習プリントに自分のペースで取り組み、集中して時間内に終わられているか。	B	基礎学習プリントへの取り組みにより、数人の生徒は集中力や基礎学力が飛躍的に高まっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学習の時間を余すことなく10分間取り組めるよう、教材を工夫し集中力と基礎学力の向上に努める。 ・生徒の得意や不得意等、個性をいち早く把握し、生徒一人一人が主体的に参加し活躍できる授業を目指して、教材作成やICT機器の活用に取り組む。 ・多様な生徒の学びを保障するため、常に何が必要かを考え、実現可能な校内システムの研究を継続して行う。
			分かる授業及び生徒の主体的な参加を促す授業の工夫をする。	独自のプリント教材やICT機器の活用等、授業の工夫に取り組んでいるか。生徒の取り組みを適切に評価しているか。	B	MetaMoji ClassroomやTeamsを積極的に活用し、授業を工夫している。また、ICTを活用した課題提出で生徒の取り組みを素早く評価している。	
			今後の在り方として、多様な生徒の学びを保障するための校内システムの研究を行う。	現職教育等により、全職員で取り組んでいるか。	C	今後も多様な生徒の増加が予想できるため、現職教育等で校内システムの研究を行っている。	
4	将来の自分をより明確に描けるような進路指導の充実	C	進路講話・ガイダンス等の開催により、生徒の勤労観や職業観を育み、進路意識の高揚を図る。	進路希望調査により、進学することや正社員として企業等に就職することを第一希望としているか。	B	進路講演会で介護福祉士という仕事を取り上げ、専門学校への進学や就職を現実的にイメージすることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が卒業後の進路を具体的に描けるよう、外部講師による進路講演会や進路ガイダンス等を実施する。 ・個人面談を定期的に行い、進路希望を丁寧に聞き取る。また、学期末に限らず必要に応じて三者面談を行う。 ・常にハローワークや外部機関等と連携し、就業への意欲向上につながる情報を積極的に提供する。
			進路実現を図るために、保護者や家庭等と連携し、生徒個々に応じた進路指導を適切に行う。	生徒の進路希望について、個人面談や三者面談を実施し、希望通りの進路が実現できているか。	A	個人や保護者を交えての面談を実施し、生徒の進路希望を丁寧に把握した結果、卒業生全員の進路が決定した。	
			ハローワークや地域のアルバイト先等と連携し、生徒に対し就職先等についての情報を適切に提供する。	求人票等に目を向けることにより、具体的な職業を意識できているか。	B	アルバイトをする生徒が増え、学校生活との両立に努めた。徐々にだが、就業に対する意識が高まっている。	

学校関係者評価（3月1日実施）

- ・地域の定時制を希望する生徒の高校教育保障として、本校の存在が大変心強いとの意見をいただいた。
- ・不登校傾向にあった生徒が本校では継続して登校し、安定した学校生活を送っている。また、これまででは想像もできなかった程の積極的な生徒の姿に対して、担任を中心とした学校と家庭との連携の取れた指導に対する評価を得た。
- ・学校生活への取り組みが不安定な生徒に対して、継続的な働きかけと保護者との連携により、安定した学校生活が送れるようになったことへの評価を得た。
- ・本年度3名の卒業生が無事に卒業することになり、進路も決定していることから、卒業生の保護者等から感謝の言葉を頂戴し、本校での高校生活が充実していることへの評価を得た。